

平成26年度短期外国出張者報告書簡（第6回）

氏 名	所属庁・官職	派遣先
林 啓 治 郎	大阪地方裁判所 判事	ドイツ マックスプランク研究所
提 出 書 面		
平成27年9月29日付け報告書簡		
報告期間中の日程の概略（平成27年9月1日～同月29日）		
9月 1日～3日	デュッセルドルフ訪問（高裁、地裁、事務所、JETRO）	
7日、8日	カールスルーエ訪問（連邦通常裁判所）	
11日	判例研究会	
14日	マックスプランク研究所、ドレクセル教授にご挨拶	
16日	UPC 研修の裁判官との面会	
17日	ミュンヘン高裁での傍聴	
18日、22日、23日	ミュンヘン地裁での傍聴、ご挨拶	
24日	マックスプランク研究所、事務局の方々にご挨拶	
25日	ホフマンアイトレ事務所訪問、ご挨拶	
キーワード欄		
<ul style="list-style-type: none"> ・マックスプランク研究所、ホフマンアイトレ事務所における日頃の研究 ・連邦通常裁判所、デュッセルドルフ高裁・地裁、ミュンヘン高裁・地裁での傍聴等 ・法律事務所でのインタビュー 		

平成27年9月29日

最高裁判所事務総局秘書課長 殿

平成26年度短期外国出張者

(ドイツ・マックスプランク研究所)

大阪地方裁判所 判事 林 啓 治 郎

報告書簡(第6回)

平成27年9月1日から同月29日までの研究状況についてご報告申し上げます。

第1 マックスプランク研究所(Max Planck Institute for Innovation and Competition)での研究

1 日頃の通所

訪問等の予定が入っている日であっても、合間の時間帯を見つけ、こまめに通所するよう心掛けた。

2 ご挨拶

ドレクセル教授(14日)、事務局の方々(24日)に、帰国前のご挨拶をした。

第2 ホフマンアイトレ事務所(Hoffmann Eitle)での研究

1 インタビュー

査察手続、損害額の算定等につき、理解が不十分であった点をお伺いした。

2 セミナー(23日)

Petitions for Review - Recent Decisions, Dr. Martin Bachelin

3 帰国前のご挨拶(25日)

第3 ミュンヘンでの研究

1 UPC研修の裁判官との面会（16日）

UPCの研修施設で研修を受けているハンガリー、スロバキア等の裁判官が、ミュンヘン地裁の特許事件を傍聴するプログラムがあり、懇親会のみ出席し、意見交換をした。

2 ミュンヘン高裁での傍聴（17日）

不正競争の事件（2件）の口頭弁論を傍聴。うち1件は和解が成立。

3 ミュンヘン地裁での傍聴等

18日、不正競争及び意匠に関する調停を傍聴した。午前9時から午後6時頃まで手続を行い、合意に至った。

22日、知財事件で尋問を傍聴する機会がなかったため、交通事件の尋問手続を傍聴した。

23日、各裁判官に、帰国前のご挨拶をした。

4 ミュンヘンの法律事務所でのインタビュー

Boehmert & Boehmert（4日）、Vossius & Partner（10日）、Bardehle Pagenberg（15日）をそれぞれ訪問し、査察手続、損害額の算定等につき、インタビューを行い、帰国前のご挨拶をした。

5 ミュンヘン知財勉強会（9日）

6 判例研究会、（EPO、意匠権侵害訴訟、11日）

第4 カールスルーエでの研究

8日、連邦通常裁判所において、特許無効訴訟を傍聴した。

テレビの信号に関する特許であり、連邦特許裁判所が特許を限定する旨の判断をしたところ、被告が上訴した。上訴人との議論に時間を費やした。

第5 デュッセルドルフでの研究

1日、JETROを訪問し、損害額の算定等につき意見交換を行った。また、HEUKING KÜHN LÜER WOJTEKを訪問し、査察手続、損害額の算定等につき、インタビュ

ーを行った後、独日法律家協会の講演に参加した。

2日、デュッセルドルフ地裁にて、査察手続、損害額の算定等につき、インタビューを行った。また、Arqisを訪問し、M&A等のお話を伺った。

3日、デュッセルドルフ高裁にて、deliberations、口頭弁論を傍聴した。特許の仮処分に関する不服申立て、不正競争の事案等であった。

第6 その他

おかげ様で、6か月間、家族共々、元気にすごすことができました。

深く、感謝と御礼を申し上げます。

今後とも、皆様より、ご指導とご鞭撻を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

以 上